

甲州街道を通ったのは人だけじゃない

甲州街道は参勤交代の際も使われ、信州下諏訪の高島藩や伊那の高遠藩などが通りました。しかし、公的な使節は大名行列だけではありません。

みなさんは「御茶壺道中」という言葉をご存じでしょうか。これは将軍が飲むお茶の葉を宇治から運んでくるための一行です。往路は東海道を下り宇治へ、復路は中山道から甲州街道に入り、一部が大月から谷村の勝山城で夏を過ごして江戸に上りました。復路に甲州街道を通ったのは、東海道は海が近いので、その湿気を嫌ったためとされています。この御茶壺道中は格式の高い一行でした。

また、江戸城内で将軍や大名が使用する箸を運ぶ一行は「御箸道中」です。小菅村猪狩から上野原を通り、幕府に献上されました。この他に、鷹狩りに使うための鷹を運ぶ「御巢鷹道中」もありました。上野原市の旧犬目宿本陣²⁹には八代将軍吉宗時代の尾張家と紀伊家の鷹狩りの関係文書が残されています。



お茶壺イメージ図

甲州街道の発見 長峰砦

中世の山城であった長峰砦跡¹⁸の発掘では、予想外の大きな発見がありました。砦跡の空堀を埋めて造られた、江戸時代の甲州街道が見つかったのです。甲州街道が当時の状態で残っている例は、ほとんどありません。発掘調査によって発見されたのも初めてであり、貴重な事例です。

発掘された甲州街道は、道幅も約1.2mと狭く、地形に沿って蛇行やアップダウンが激しい、険しい道であったことがうかがえます。

甲州街道が通っても、砦の地形はそのまま残っていました。郭で一服しながら眺めを楽しんだ人がいたのか、江戸時代の銭貨やキセルなどが出土しています。これらは落とし物というよりは、甲斐から相模へ国境を越えていく際の手向けとして、置いていかれたのかもしれない。



長峰砦からの眺望



江戸時代の旅人が残した銭貨・キセル